



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第十四号〕

小暑

七月七日

五十鈴川の新橋

文月七月。二十四節気も小暑を迎えました。この頃は、かっと太陽が照りつける真夏の暑さと違って、湿度の高い、蒸し暑さがこたえます。また、梅雨末期の豪雨があるのもこの時期です。

内宮前を流れる五十鈴川もふだんは流れの穏やかな清流ですが、ひとたび大雨となると水かさが増して、激しい流れとなります。五十鈴川に架かる橋の中でも、宇治館町と中之切町を結ぶ新橋はどちらかというと観光客より、地元の人たちが通る生活の道。今は内宮さんのお膝元らしく、橋の欄干に擬宝珠のついた太鼓橋ですが、かつてはまっすぐの木橋でした。館町の古老が覚えているだけで、洪水の際、上流から流されてきた材木がぶつかり、三回ほど壊れたといえます。木の橋の宇治橋には、流水避けの木杭が少し上手に立っているのもうなすけません。

新橋がいつ架けられたのかはわかりませんが、宝永年間(一七〇四〜一一)の記録があることから、三百年以上前にはあったようです。三百年の歴史をもつ「新橋」です。

橋の東詰めには、安政元年(一八五四)に五十鈴川の水害防止を願って速秋津比古神、速秋津比売神の二柱をまつる水神さんが創始されています。明治四十一年に宇治神社に合祀されましたが、このあたりに水害が多かったことを物語ります。

気になる梅雨明けは、東海地方では平年は七月二十日。去年は二十六日、その前年は十八日でした。今年は二年次のお木曳が二十一日から始まります。宇治奉曳団は二十二日。いつそう梅雨明けが待たれます。

文 千種清美

